

特定領域研究 「質量起源と超対称性物理の研究」

第1回研究会 2003年3月4-5日 筑波大学大学会館

研究目的

「物質に質量があるのはなぜか，
物質の質量を決めている物理法則は何か」

○ヒッグス粒子の直接探査

CDF実験

○標準理論からのずれ(新しい物理の手がかり)

ファクトリー加速器を用いた精密実験

(トップ・B・ τ ・Kファクトリー)

○次世代の加速器実験の提案と開発研究

JHF加速器， LHC実験， JLC実験

理論と実験の密接な共同研究

計画研究・公募研究（平成14年度発足）

<http://www.tsukuba.jp.hep.net/~skim/tokutei/h14kenkyuu-tokutei.html>

平成14年度 研究一覧表

計画研究

計画研究名

研究項目番号

代表研究者（所属）

高エネルギー陽子・反陽子衝突によるヒッグス粒子の探索 A01 **CDF実験**

金 信弘（筑波大学物理学系）

Bファクトリーを用いた質量起源の探求 A02 **BELLE実験**

相原博昭（東京大学大学院理学系研究科）

タウレプトンの物理 A03 **BELLE実験**

大島隆義（名古屋大学大学院理学研究科）

Kファクトリーを用いた K^0 崩壊の測定 A04 **K Decay KEK-E391a, JHF**

山中 卓（大阪大学大学院理学系研究科）

荷電および中性K中間子の稀崩壊の精密測定 A05 **K Decay BNL-E949, KOPIO**

杉本章二郎（KEK素粒子原子核研究所）

ヒッグスセクターと超対称理論ダイナミックスの現象論的研究 A06 **理論**

日笠健一（東北大学大学院理学研究科）

公募研究 次世代の加速器実験の提案と開発研究 JHF, LHC, JLCなど

（21公募研究）

総括班（平成13年度発足）

•総括班X00：質量起源と超対称性物理の研究計画調整

班長	金 信弘	筑波大学物理学系	教授	素粒子実験
	相原 博昭	東京大学大学院理学系研究科	助教授	素粒子実験
	大島 隆義	名古屋大学大学院理学研究科	教授	素粒子実験
	山口 晃	東北大学大学院理学研究科	教授	素粒子実験
	杉本 章二郎	KEK素粒子原子核研究所	教授	素粒子実験
	稲垣 隆雄	KEK素粒子原子核研究所	教授	素粒子実験
	山中 卓	大阪大学大学院理学研究科	助教授	素粒子実験
	野村 正	京都大学大学院理学研究科	助手	素粒子実験
	日笠 健一	東北大学大学院理学研究科	教授	素粒子理論
	三田 一郎	名古屋大学大学院理学研究科	教授	素粒子理論

以上10名

総括班は4年間におよぶ本領域研究の実施期間中に各研究の調整をとり、とくに実験研究について指揮をとると同時に、理論と実験の密接な交流をはかる。研究会等のミーティングを実施し報告書を適宜編集しコミュニケーションと情報の開示を統括する。